

古代火おこし

期待される効果

思考力	判断力	表現力	創造力	コミュニケーション能力	体力	生命尊重	感動する心	知識・技能	協調性	主体性	課題発見	課題解決能力	自然への気づき	自然愛護
○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○

活動場所	炊飯棟・体育室前	対象	未就学児～一般
班の人数	5人～6人	所要時間	1時間～2時間
団体側の準備物	帽子・水筒・タオル・軍手		
施設側の準備物	火おこし道具		

活動の内容

- 原始的な火おこし体験を通して、火と人の関わりや歴史、発火の仕組みを体験的に学習する。
- 火おこしの不便性を体験的に味わうことで火の有難さを感じる。
- 活動を班で協力して取り組むことで、主体性や協調性を養う。
- 火おこしの知識・技術や、けがや火傷などの危険を予測することで自助・共助力を養う。



活動の流れ

- ① 活動についての説明
《資料・道具の説明》
・活動道具について説明（火のおこし方）
- ② 活動開始
- ③ 片付け
- ④ ふりかえり

留意点

- 津波警報発令時は、**自然の家屋上**へ避難する。
- 班で行動し、適度に休息・水分補給を入れる。
- 活動中のケガや火傷（摩擦熱）に注意する。

引率者の動き

- (事前)
- 1班5～6人の班の編成を行い、班長を決めておく。
- (当日)
- 津波警報発令時は、**自然の家屋上**へ避難誘導をする。
 - 各班付き指導もしくは巡回指導（安全管理）をする。